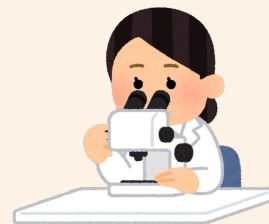


2025年度 SSH特設科目「SSII」

【第26回】

研究要綱執筆 -後編-

2026年3月3日（火）



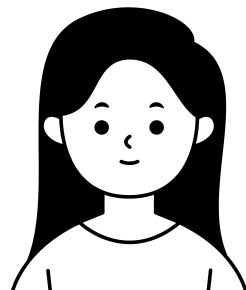
なぜ、書類審査が重要か？

電磁気学で著名な Michael Faraday は Work, Finish, Publish という言葉を残しました。大まかには、どれだけ良い成果が上がっていても (Work, Finish)、その成果を正確に分かりやすく伝える Publish を経なければ本当の終了ではない。 という意味です。限られたスペースの中でこれまで行ってきた探究活動・課題研究を振り返り、まとめ、構成を考え、分かりやすく書くことは大変ですが、ビジネスの分野も含め、今後につながる大変有効な知的なトレーニングとなります。また、スライドやポスターによる発表と異なり、情緒にとらわれることなく残るものであり、難易度も高いが、論理の飛躍や知識の活用力が明確に問われる上、推敲を重ねる作業は多くの小さな気づきを与え、一步步着実な成長につながります。Oxford 大学（院）などの大学（院）の卒業試験が数百年に渡って筆記試験を必ず課している理由はそこにあります。

第10回高校生国際シンポジウム書類審査講評より引用

「**読んだらわかる**」を作る

- 動機から探究につながった経緯がわかる
- リサーチクエスションと手法のつながりがわかる
- 意義や成果をどう見いだしたかがわかる



これから探究活動

高2・高3



探究の見直し

自分達の探究の穴はどこにあったか。
発表では見えてこない深部を追究する。

○○○○(タイトル) (English Title)
○○○(チーム番号) ○○○○(名前:複数の場合は全員分記載)
Abstract
Keywords
1. 研究背景
2. 研究目的・意義
3. 研究方法
4. 結果・考察
5. 結論及び今後の展望

研究要綱をチームごとに作成

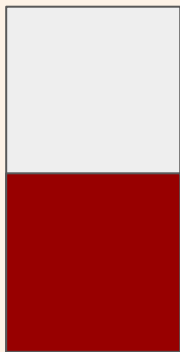
- 1.研究背景
- 2.研究目的・意義
- 3.研究方法
- 4.結果・考察
- 5.結論および今後の展望



これまでの探究

高2時点の目標 = 50%完成

マクロ型



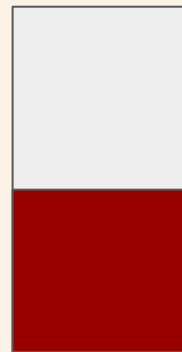
1.研究背景



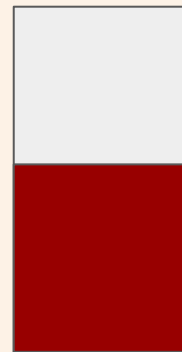
2.研究目的



3.研究方法

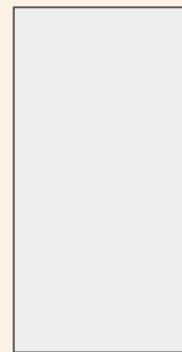
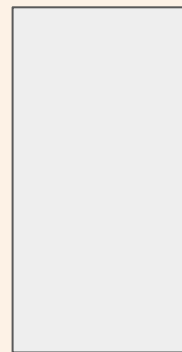


4.結果考察



5.結論展望

ミクロ型



研究要綱の書き方

項目	ポイント	課題研究 メソッド
タイトル	研究要綱のタイトルは、どのような研究を行ったのかが分かるものにするともに、どのような着眼点で研究を行ったのかが伝わるものにする。	P. 132
Abstract	研究論文における要旨は、限られた文字数の中で研究の内容（研究の背景、目的、意義、手法、結果・考察、結論・今後の展望）が分かるように記述すること。なお、英文の語数制限は「単語数」で数えるため、注意すること。	P. 134, P. 153-156
研究背景	初見者が研究テーマを理解できるよう、専門用語や意味・定義が定まっていない言葉については、必要に応じて説明を加えながら、必要な情報を示すこと。また、なぜその研究テーマを選んだのかについて、社会的背景や学術的な動向にも触れながら記述すること。	P. 134
研究目的・意義	どのようなリサーチエスションを設定したのかを明確に述べる。つまり、その研究が何を明らかにするために行われたものなのかを、明確に記述すること。	P. 134
研究方法	研究方法の目的の通り、リサーチエスションに対する研究方法の妥当性と、研究を再現するために必要な内容が具体的に明記されているかという二点を踏まえて記述すること。	P. 135
結果	得られた結果を分かりやすく（グラフや図・表、あるいは整理された文章などを用いて）まとめるとともに、そのデータについて適切に説明しながら記述すること。	P. 135
考察	考察では、得られた結果に対して新たな「問い」を立て、その結果の詳細や原因を探究しながら理解を深め、結論を導くことを意識して記述すること。	P. 136
結論及び 今後の展望	今後の展望では、この研究成果によって社会・学術にどのような貢献が期待されるのかを示すとともに、今回の研究で得られた新たな「問い」や研究上の課題を踏まえ、次の研究への提言について記述すること。	P. 136
参考文献・引用 文献	引用文献（論文中に出てきた文献のリスト）について、必要な情報を適切な形式で整理し、漏れなく記述すること。	P. 174-177

A4で2枚～4枚

→書き方詳細は
クラスルームへ
(注意事項は紙)

課題研究メソッドを使おう

ページ	章/節	題目	コメント
P. 128	第4章 4	これからの展望を考えよう	ときどき原点を振り返ろう
P. 137	第5章 2-3	研究要綱の構成	スライドと同じなので参考程度
P. 138-140	第5章 2-4	研究論文・研究要綱を書くポイント	何をどう書くか大事なことがたくさん
P. 153-156	第5章 5	英文要綱・論文の作成	Abstractの執筆に必要
P. 169-170	資料 3-1	文章を書くポイント	「読んだらわかる」を作るために 必要なポイントが盛りだくさんなので、 絶対に参照する
P. 174-177	資料 4	引用文献・参考文献の書き方	ここが大事なことはよく分かっているはず よく確認しながら書き進めよう

研究要綱作成におけるAI活用の視点

1. 研究の価値は「プロセス」にこそ宿る。

「誰にでも書ける平均的で論理的に整った言葉」よりも、
「あなただけの経験」こそが、研究に社会的な価値を与える。

2. 「借り物の言葉」で自らの研究の価値を貶めない。

要綱に書かれた内容はすべて自分の言葉で、腹落ちした状態で
説明できなければならない。

3. 「メタな視点」をもち、「思考の主導権」を握る。

深い思考を繰り返し、自分の研究を一段高い場所から見つめ直す
ことで、これまでの経験が将来につながる力になる。

AIを代筆者ではなく、コーチにするために

【START】 AIに聞く前に自身に問いかける。

ポスターで削ぎ落とされた、「試行錯誤のプロセス」を書き出す。
一番伝えたいことを軸に「研究の文脈」を予め言語化しておく。

【PROCESS】 AIを自分にとっての「コーチ」にする。

丸投げの依頼ではなく、「問い」を投げ続ける。
建設的な批判をAIに返すことで、思考の主導権を握る。

【GOAL】 「納得の答え」への最終調整をする。

音読してチェックし、自分の言葉として腹落ちしているか確認する。
指導の先生との対話の中でブラッシュアップを重ねる。